

# 脳科学をめぐる国民意識 ——調査結果の概要——

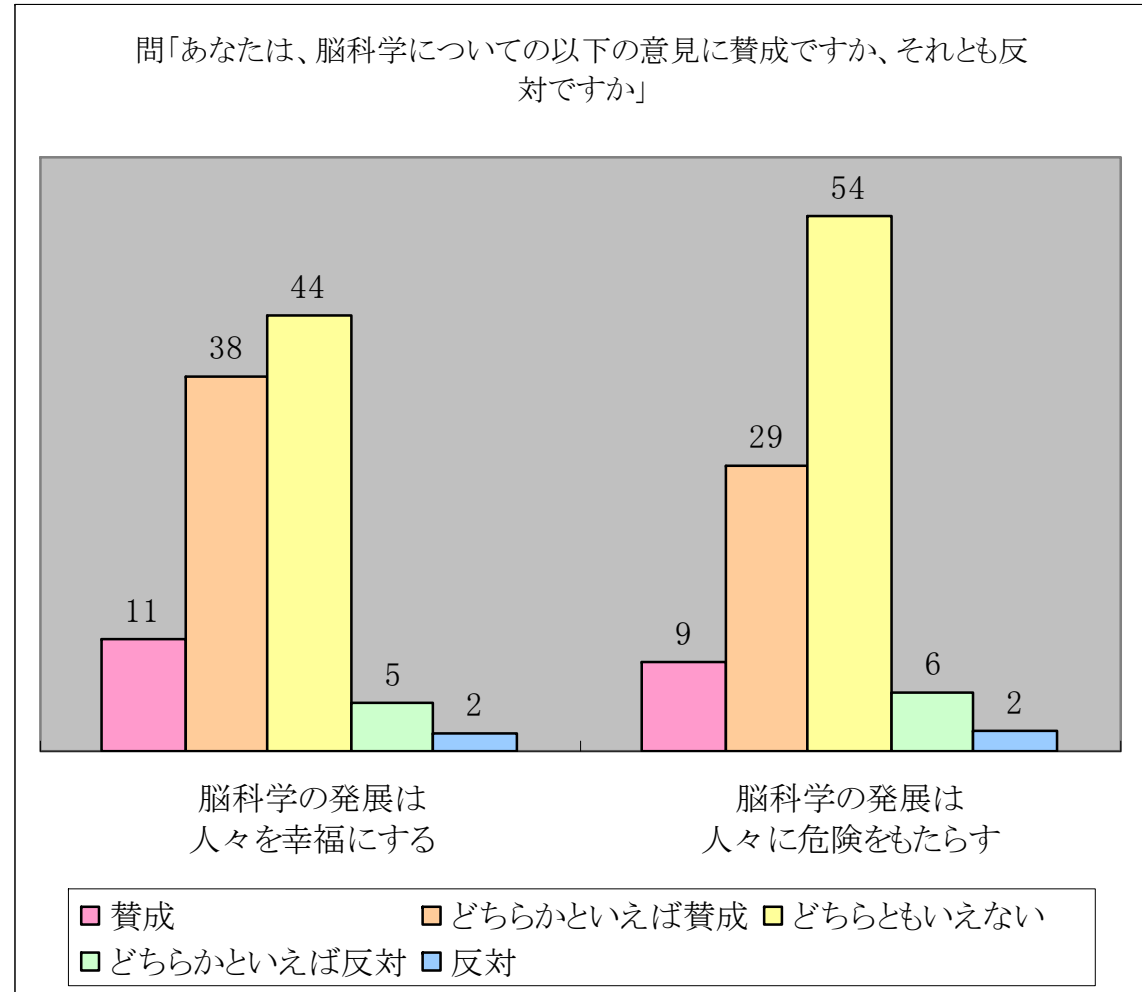
# 調査方法

- 調査方法：ウェブを利用した、モニターを対象とするアンケート調査.
- 調査時期：2007年11月～12月
- 対象属性：全国20歳～69歳男女
- 年齢、性別、在住都道府県に関し、国民属性分布に近似するように、モニターからサンプリング。
- 有効回収票数：2500

# 脳科学に対する期待と不安

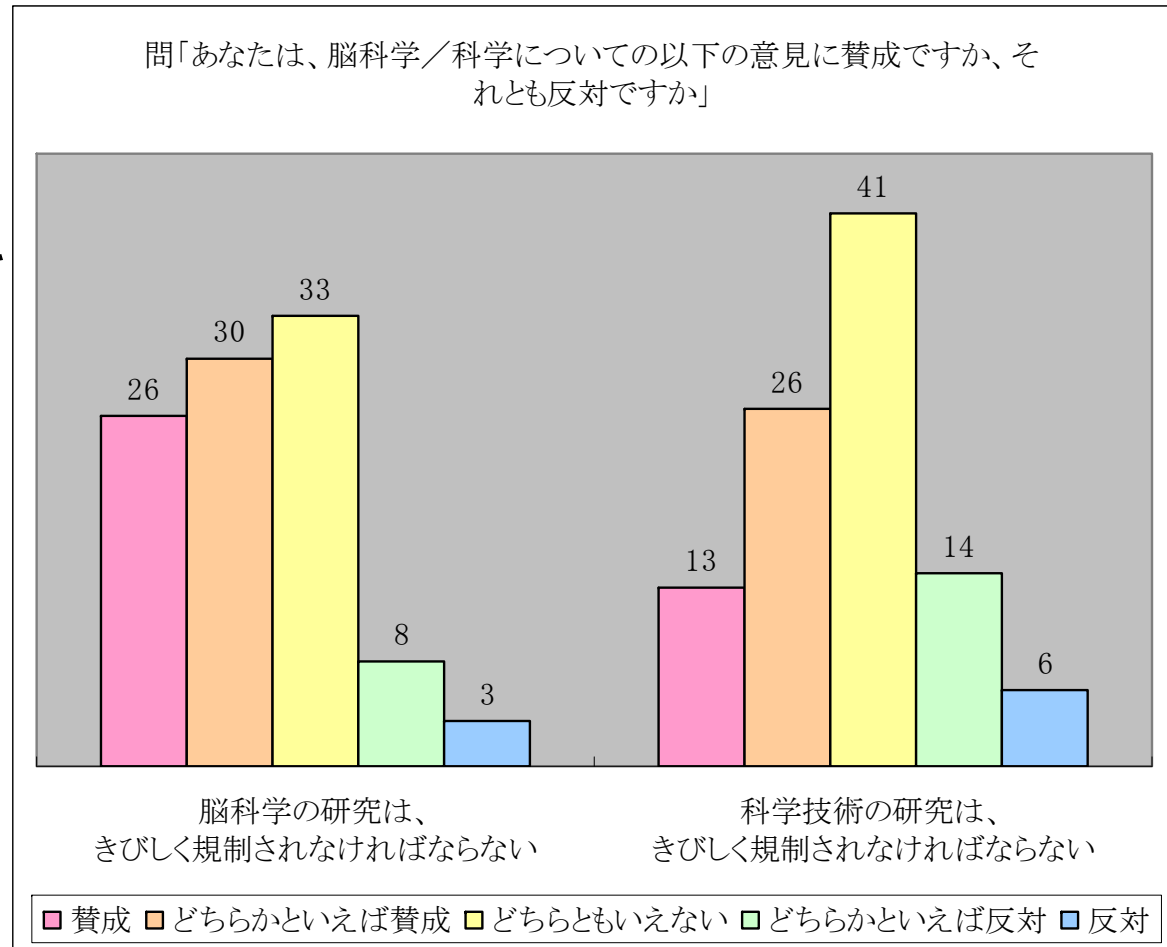
- 脳科学に対する期待と不安の双方がある。
- 脳科学は「人々を幸福にする」と考える人々は5割近くいる。
- 脳科学は「人々に危険をもたらす」という人々も4割近くいる。

(左のグラフの数値は全てパーセンテージ、回答数は2500、以下同様)



# 脳科学に対する規制の要望

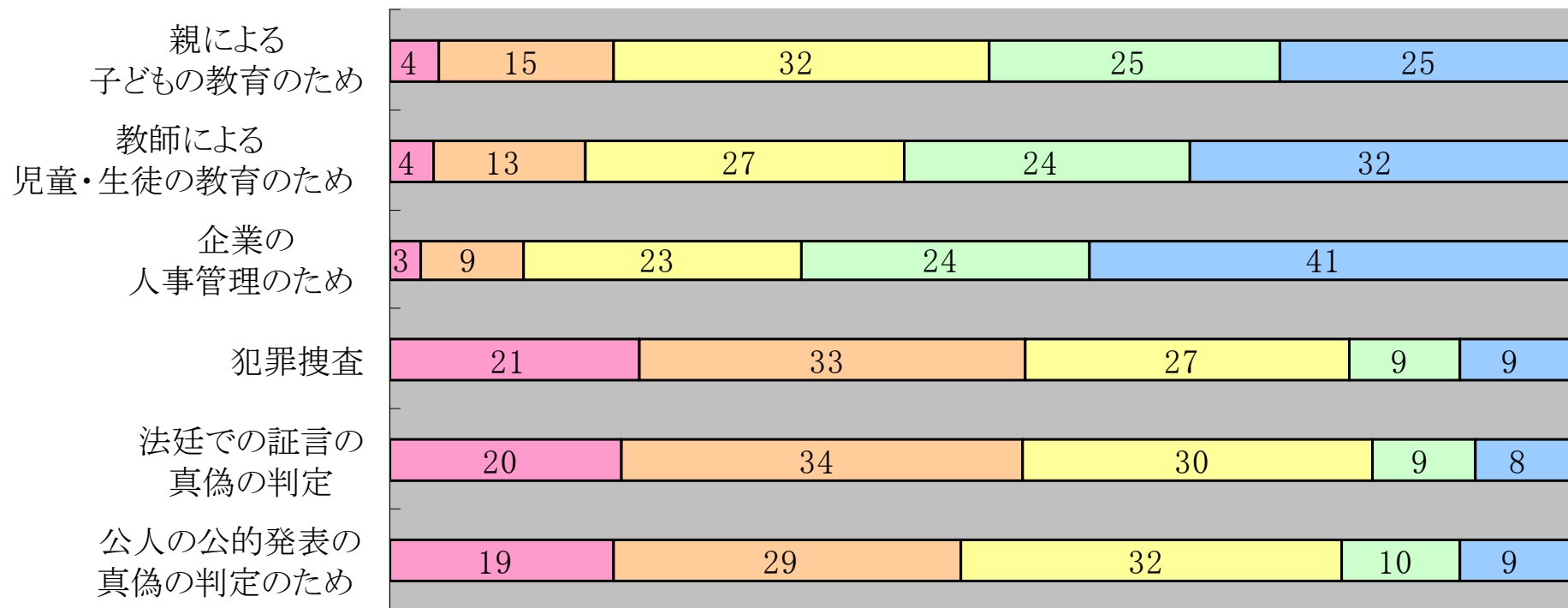
- 脳科学の研究に対して「きびしい規制」を求める人は5割を超す。
- これは、科学技術の研究一般に対する「きびしい規制」の要望(4割弱)を上回る。



## 思考・感情を読む技術の評価（用途別）

- 犯罪捜査、証言、公的発表の真偽判定は5割が肯定的に評価。
- 教育目的では5割前後、人事管理目的では6割が否定的に評価。

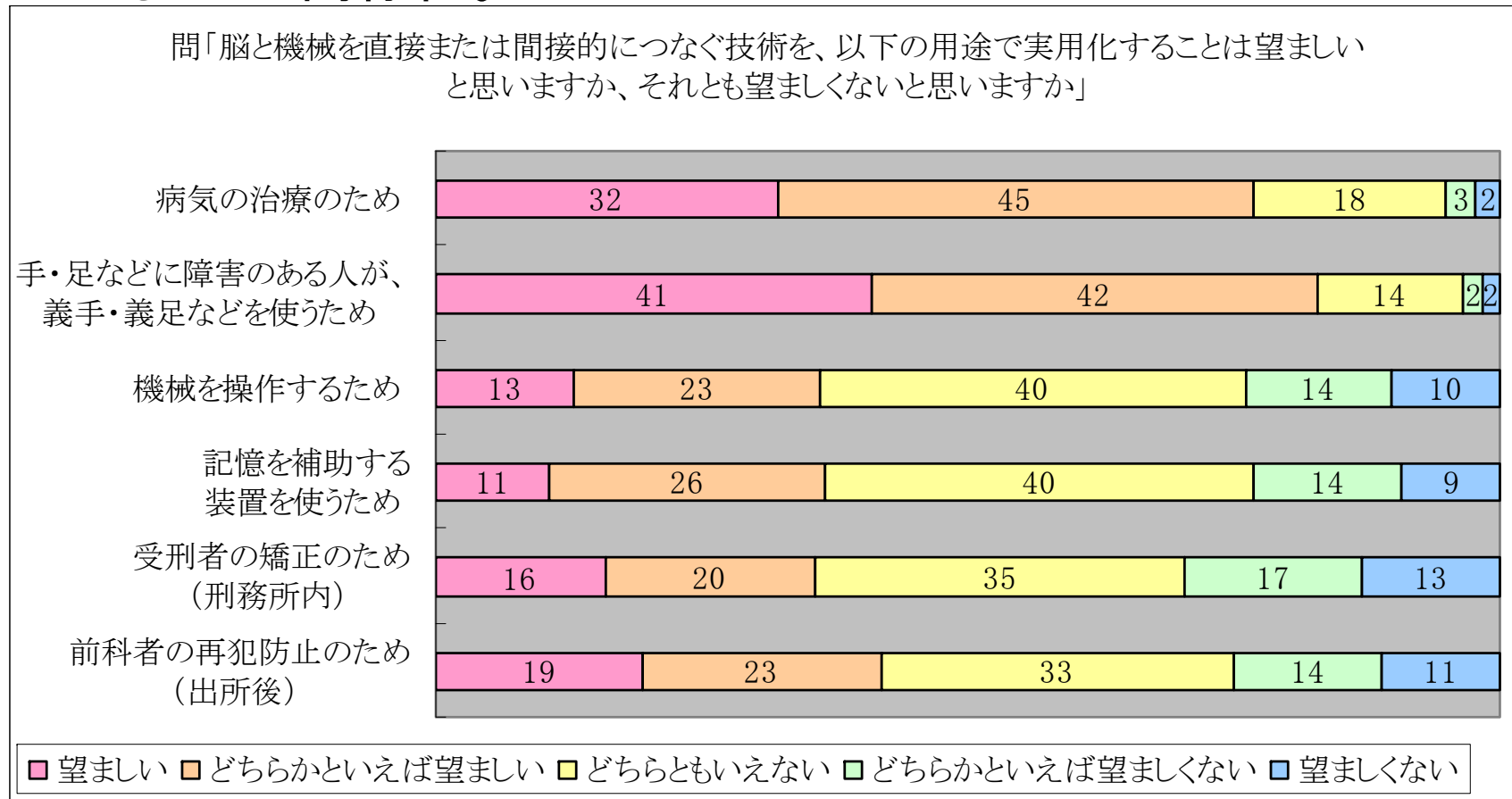
問「脳を計測することにより思考・感情を読む技術が、以下の用途で実用化されることは望ましいと思いますか、それとも望ましくないと思いますか」



■ 望ましい
 ■ どちらかといえば望ましい
 ■ どちらともいえない
 ■ どちらかといえば望ましくない
 ■ 望ましくない

# BMIの実用化に対する評価

- BMIの実用化については、福祉・医療目的は8割前後が支持。
- 機械操作、記憶補助、矯正、再犯防止は、支持する人が支持しない人の割合を上回るものの、「どちらともいえない」とする人も3～4割存在。



# まとめ

- 新しい神経機能イメージングやBMIなどの脳科学技術の振興は、我が国にとって重要であるが、急速な技術の発展に対する国民の不安も存在している。
- 脳科学研究者の立場からみて、社会と調和した脳科学技術の発展には、学科(医学、工学、心理学、情報学など)の枠を超えた統一的ガイドラインの策定、被験者保護の徹底などが必要と考えられる。

## まとめ2

- ヒトゲノム計画の場合には、優生学に悪用されるとの反発もあり、J・ワトソンのイニシアティブで、全研究費の3-5%を倫理的・法的・社会的問題(ELSI)の検討に振り向けた例がある。
- 脳科学研究者の研究意欲を尊重しつつ、社会と調和した科学技術の振興を図るためには、あらかじめ研究プロジェクトのなかにELSI研究を行う個人やグループを組み込むことも有用と考えられる(たとえば、平成20年度「脳科学研究戦略推進プログラム」でのBMIに関連したニューロエシックス研究)。